



著者プロフィール

押野裕（おしの・ひろし）

昭和42年9月13日 神奈川県小田原市生れ。
平成7年 小田原俳句入門講座にて俳句入門。
小澤實に師事。
平成8年 「鷹」入会。
平成12年 「鷹」を退会し、「澤」創刊に参加。
「澤」編集部員となる。
平成15年 澤新人賞受賞。
平成17年 「澤」編集長に就任。
平成20年 「澤」編集長を退任。

「澤」同人
俳人協会会員

〈句集『雲の座』より転載〉〈2011年8月28日時点〉

『雲の座』 (自選15句)

押野
裕

九天より大き蜜柑の落ちにけり
機関庫に十の機関車秋高し
父母に戦後ありけり豆の花
石段に折れ炎天のわが影は
子の尿の燦燦として山眠る
君が家へ君と歩くや夜の蹣跚
桐の実や雲の座として命ヶ岳
負鶏を蛇口の水に洗ひをり
瓜盗人カメラの死角目に測る
パソコンにはかと言ふ人枇杷の花
春月や渋谷の底に酒酌める
薄水の上なる水や吹かれをる
ちりどりの蓋あけ落花ざつと捨つ
木犀や団地A棟永遠にA
わが肩に生ひ出で曼珠沙華高し